

湯島聖堂、湯島天神、旧岩崎邸、下町資料館など、初春の梅見ウォーク

今井裕子さんと歩く東京探偵団第1回ウォーク

今井裕子さんからのメッセージ

お客様の興味は多様化し、定型的な“観光スポット”のみならず、都内各地にある地域密着型の観光資源にも興味をお持ちかと思えます。私たちが外国に行ったときにそうであるように、住民としての私たちが日常的に訪れるところ、私たちが日常的に楽しんでいることにもご興味があろうと思えます。そんな“小さな観光資源”をご一緒に探しませんか？ 私たちもなかなか一人では行けなかったり、見逃したりすることも多いかもしれません。一緒に訪ねてみませんか？

※本研修では、今井さんは、ガイド仲間の一人として、参加します。参加者全員が知恵を出し合って、東京の魅力を再発見する研修です。(理事長 米原亮三)

日時

2月8日(土) 10時～16時頃

2月19日(水) 10時～16時頃

定員 15名

参加費 1,800円(入館料は、各自)

非会員 2,500円

◆コース

10時にJR御茶ノ水駅聖橋口近くのスターボックス前の広場で集合

→湯島聖堂→神田明神→湯島天神→旧岩崎邸→下町風俗資料館→上野公園→意見交換会→解散

◆コースの魅力

この度は、早春の湯島から上野あたりの探訪です。ちょうど湯島天神では梅まつりが8日から開催され、受験前の絵馬も多く奉納されています。英語のおみくじもあります。

令和は大宰府の「梅」が改めて注目されていますし、皆様で光の春を感じたいと思います。



下町風俗資料館では人形師辻村寿三郎氏による人形を中心とした「江戸風俗人形」の世界が開催中です。
皆様とご一緒だと一層楽しいと思います。お付き合いいただければとてもありがたいです。

訪問する施設の概要

行程	地 点	説 明
1	集合	JR 御茶ノ水駅聖橋口近くのスターバックス前の広場で集合
2	湯島聖堂	<p>徳川五代将軍綱吉は儒学の振興を図るため、元禄3年(1690)湯島の地に聖堂を創建して上野忍岡の林家私邸にあった廟殿と林家の家塾をここに移しました。これが現在の湯島聖堂の始まりです。その後、およそ100年を経た寛政9年(1797)幕府直轄学校として、世に名高い「昌平坂学問所(通称『昌平校』)」を開設しました。</p> <p>明治維新を迎えると聖堂・学問所は新政府の所管するところとなり、当初、学問所は大学校・大学と改称されながら存置されましたが、明治4年(1871)これを廃して文部省が置かれることとなり、林羅山以来240年、学問所となつてからは75年の儒学の講筵は、ここにその歴史を閉じた次第です。ついでこの年わが国最初の博物館(現在の東京国立博物館)が置かれ、翌5年(1872)には東京師範学校、わが国初の図書館である書籍館が置かれ、7年(1874)には東京女子師範学校が設置され、両校はそれぞれ明治19年(1886)、23年(1890)高等師範学校に昇格したのち、現在の筑波大学、お茶の水女子大学へと発展してまいりました。このように、湯島聖堂は維新の一大変革に当たっても学問所としての伝統を受け継ぎ、近代教育発祥の地としての栄誉を担いました。</p> <p>大正11年(1922)湯島聖堂は国の史跡に指定されましたが、翌12年(1923)関東大震災が起これ、わずかに入徳門と水屋を残し、すべてを焼失いたしました。この復興は斯文会が中心となり、昭和10年(1935)工学博士東京帝国大学伊東忠太教授の設計と(株)大林組の施工により、寛政時代の旧制を模し、鉄筋コンクリート造りで再建を果たしました。この建物が現在の湯島聖堂で、昭和61年度(1986)から文化庁による保存修理工事が、奇しくも再び(株)大林組の施工で行われ、平成5年(1993)三月竣工いたしました。(ホームページから)</p> <p>※コメント</p> <p>江戸時代の初期、家光までは、豊臣家の残党や、外様の戦国大名に対し、この勢力をそぎ、徳川家の権威を確立する時代でした。</p> <p>綱吉のころから、徳川家の安泰と統治機能の安定化の時代を迎えます。その中心となったのは、儒教特に、朱子学です。以下は、国家の統治の核となった宗教です。</p> <p>① 奈良時代 東大寺など南都仏教 ② 平安時代 天台宗と真言宗 ③ 鎌倉時代 室町時代 禅宗・臨済宗 ④ 江戸時代 儒教・朱子学</p> <p>以上を考えると、儒教の中核施設である湯島聖堂の重要性がわかります。なお、これ以降、革新的な要素が抑えられ、変化しない日本体質が生まれたのも、</p>

		儒教にも一因があったと思います。（理事長 米原亮三）
3	神田明神	<p>◆神田神社(神田明神)は、天平2年(730)に現在の皇居大手門脇将門塚周辺に、出雲系氏族の真神田臣が祖神大己貴命(だいこく様)を奉祀したことに創建の歴史は始まります。その後、延慶2年(1309)に時宗二祖真教上人により此の地の安寧を願い平将門公が合祀されて以来、戦国武将たちの篤い信仰を集めてきました。江戸に幕府が開かれるや、江戸城の拡張工事が行われ元和2年(1616)には、江戸城の表鬼門にあたる現在の地に遷座して、「江戸総鎮守」として將軍家や町人の崇敬を受けてまいりました。明治元年には准勅祭社に定められて同7年には、明治天皇が御親拝になりました。戦後は神社本庁別表神社に列せられて、神門の復興を始めとして境内諸設備も整えられると共に、神田祭も年々盛大に斎行されて参りました。現在は、千代田区・中央区を中心とする108ヶ町会・東京の食文化を支える青果市場(旧神田市場)・魚河岸会(魚市場)の守護神が境内に祀られ崇敬されております。</p> <p>◆神田祭</p> <p>「天下祭」として知られる神田祭は、元和年中までは船渡御であったと言われている。延宝年中までは毎年斎行されていたが、山王祭(千代田区・日枝神社)と隔年で斎行することになり、以後今日までに2年に一度斎行されることが恒例となった。江戸幕府の庇護を受け、江戸城・内曲輪内へ、2基の神輿、36番45本前後の山車や附祭、御雇祭などからなる祭礼行列が練りこみ、徳川將軍や御台所の上覧があったことなどから、江戸の庶民たちからいつからか「天下祭」と称されるようになった。また、江戸時代を通じて全国的に有名な祭のひとつとして「日本三大祭り」「江戸三大祭り」の中に数えられたている。(ホームページから)</p> <p>※コメント</p> <p>神田明神は、日本橋など江戸の町方の大半を氏子とする神社であり、その祭礼である神田祭りは、神輿が江戸城にも入れる天下祭りと称された。また、境内には、銭形平治の碑があるなど、末社の数々も魅力的である。</p>
4	湯島天神	<p>湯島天神は 雄略天皇二年(458)一月 勅命により創建と伝えられ、天之手力雄命を奉斎したのがはじまりで、降って正平十年(1355)二月郷民が菅公の御偉徳を慕い、文道の大祖と崇め本社に勧請しあわせて奉祀し、文明10年(1478)十月に、太田道灌これを再建し、天正十八年(1590)徳川家康公が江戸城に入るに及び、特に当社を崇敬すること篤く、翌十九年十一月豊島郡湯島郷に朱印地を寄進し、もって祭祀の料にあて、泰平永き世が続き、文教大いに賑わうようにと菅公の遺風を仰ぎ奉ったのである。</p> <p>その後、学者・文人の参拝もたえることなく続き、林道春・松永尺五・堀杏庵・僧堯恵・新井白石などの名が見える。將軍徳川綱吉公が湯島聖堂を昌平坂に移す</p>

		<p>におよび、この地を久しく文教の中心としていよいよ湯島天満宮を崇敬したのである。</p> <p>明治五年(1872)十月には郷社に列し、ついで同十八年(1885)八月府社に昇格した。明治維新以前は、上野東叡山寛永寺が別当を兼ね、喜見院がその職に当った。</p> <p>元禄十六年(1703)の火災で全焼したので、宝永元年(1704)将軍綱吉公は金五百両を寄進している。</p> <p>明治十八年に改築された社殿も老朽化が進み、平成七年十二月、後世に残る総檜造りで造営された。(ホームページから)</p> <p>※コメント</p> <p>湯島天神は、菅原道真を神として祭ります。日本三大怨霊は、「菅原道真(すがわらのみちざね)」「平将門(たいらのまさかど)」「崇徳院(すとくいん)」の3人の事を指すといわれます。平将門が神田明神の神様ですから、本コースは、まさに怨霊コースです。この3人は、天皇や藤原家に嫌われ、失脚した人たちですから、武家政権の神様になったとも言えますね。</p>
5	旧岩崎邸	<p>旧岩崎邸庭園は1896年(明治29年)に岩崎彌太郎の長男で三菱第3代社長の久彌の本邸として造られました。往時は約1万5,000坪の敷地に、20棟もの建物が並んでいました。現在は3分の1の敷地となり、現存するのは洋館・撞球室・和館の3棟です。木造2階建・地下室付きの洋館は、鹿鳴館の建築家として有名な英国人ジョサイア・コンドルの設計で近代日本住宅を代表する西洋木造建築です。館内の随所に見事なジャコビアン様式の装飾が施されていて、同時期に多く建てられた西洋建築にはない繊細なデザインが、往事のままの雰囲気漂わせています。</p> <p>別棟として建つコンドル設計の撞球室(ビリヤード場)は当時の日本では非常に珍しいスイスの山小屋風の木造建築で、洋館から地下道でつながっています。洋館と結合された書院造りの和館は当時の名棟梁大河喜十郎の手によるものと言われていて、床の間や襖には、明治を代表する日本画家・橋本雅邦が下絵を描いたと伝えられる障壁画などが残っています。現存する大広間を中心に巧緻を極めた当時の純和風建築をかいま見ることができます。</p> <p>大名庭園を一部踏襲する広大な庭は、建築様式と同時に和洋併置式とされ、「芝庭」をもつ近代庭園の初期の形を残しています。</p> <p>昭和27年(1952)年に国有財産となりました。戦後GHQに接収され、返還後、最高裁判所司法研修所かどとして使用(~1970年)されました。昭和36年(1961年)に洋館と撞球室が重要文化財に指定。昭和44年(1969年)に和館大広間は洋館東脇にある袖塀とともに、平成11年(1999年)に煉瓦塀を含めた敷地全体と実測図がそれぞれ重要文化財に指定されました。(ホームページから)</p>

		<p>※三菱財閥の岩崎家の屋敷です。江戸から明治へと変化を感じましょう。</p>
6	下町風俗資料館	<p>明治・大正ころまでの下町には江戸の名残がありました。しかし大正 12 年(1923)の関東大震災、昭和 20 年(1945)の戦災によって、ほとんどその面影をなくし、さらに目覚しい復興を遂げた戦後、特に昭和 30 年代後半には東京オリンピックを契機とする再開発が積極的に進められ、街はすっかり様変わりしました。</p> <p>人びとの暮らしもまた時代とともに変化し、便利さを取り入れた代わりに、古い時代の大切なものが忘れられようとしていました。古き良き下町の文化が失われつつあることに、憂いの声が上がったのは昭和 40 年代のことでした。</p> <p>それは次第に下町を愛する人びとの間に広がり、やがて庶民の歴史である下町の大切な記憶を次の世代へ伝えるための資料館設立の構想が生まれたのです。これを実現するために台東区内外からたくさんの貴重な資料が寄贈されました。</p> <p>そして、多くの人びとの長い歳月をかけた願いが実り、台東区立下町風俗資料館は、昭和 55 年(1980)10 月 1 日に、ここ不忍池畔に開館いたしました。</p>
7	上野公園	<p>上野恩賜公園は、明治 6 年の太政官布達によって、芝、浅草、深川、飛鳥山と共に、日本で初めて公園に指定されました。ここは、江戸時代、東叡山寛永寺の境内地で、明治維新後官有地となり、宮内省を経て東京市に下賜され「恩賜」の名称が付いています。</p> <p>①不忍弁天堂</p> <p>不忍弁天堂の画像 寛永寺を創建した天海僧正が建立。創建当時のお堂は戦災で消失し、現在の堂は昭和 33 年(1958 年)に再建したものです。ご本尊（八臂大弁財天）は、長寿や福德・芸能の守りとして信仰されています。池の四方からお参りできるように八角形のお堂です。</p> <p>②西郷隆盛像</p> <p>西郷隆盛像の画像 明治維新の指導者の西郷隆盛は、幕府征討軍参謀として幕臣の勝海舟との会談で、江戸城の無血開城を実現しました。作者は高村光雲で、明治 31 年 12 月 18 日に除幕式が行なわれました。連れている犬の刻みは、後藤貞行で犬は「ツン」という名前です。</p> <p>※上野公園は、もと寛永寺の境内です。別途、上野公園の諸施設の探訪も計画します。</p>
8	交流会	<p>自由参加ですが、本日のコースについて、ガイド目線で意見交換をします。</p>